

2007年度(平成19年度)第5回理事会記録

日時：2007年(平成19年)12月15日(土)14:00~16:00

場所：八重洲倶楽部 第11会議室

参加者：柴田洋三郎(理事長)、牛木辰男、内山安男、岡部繁男、藤本豊士(以上、常務理事)、石村和敬、井関尚一、井出吉信、伊藤恒敏、大野伸一、坂井建雄、仙波恵美子、竹内義喜、辰巳治之(以上、理事)、山田仁三、渡辺雅彦(以上、監事)、依藤 宏(常任幹事)、天野恵子、川村知子(以上、口腔保健協会)

欠席者：澤田 元、塩田浩平、菅沼龍夫(以上、理事)

I. 議事録署名人の選任

議事録署名人として大野、井関両理事を選任する旨の提案がなされ、承認された。

II. 会議記録の確認

2007(平成19)年度第4回理事会記録、同議事録、同摘録(案)

III. 報告事項

1. 庶務報告(岡部庶務担当理事)

(1) 教授就任による学術評議員の承認

5件の申請が承認された。

(2) 持ち回り理事会結果について

7月11~19日にメーリングリストを介しておこなわれた理事会の結果が再度確認された。

(3) 文部科学省による実地検査

5月15日に実施された文部科学省による実地検査の結果とそれに対する対応について、報告がおこなわれた。

(4) 公益法人改革について

標記改革に関し、その概要の説明があり、公益社団法人となるために岡部庶務担当理事、牛木会計担当理事、菅沼理事からなる委員会をつくり対策を練ることが報告された。

(5) 公益法人概況調査について

文部科学省から来た標記調査について報告がおこなわれた。

(6) ホルマリン規制について(この項は坂井理事よりの報告)

厚生労働省による「リスク評価検討会報告書及びそれに基づく行政措置」について説明があった。その大要はホルマリンが特定化学物質障害予防規則の第2類に格上げされる予定で、技術職員の作業環境が問題となること、規制の上限は0.1ppmであること、年2回の測定、健康診断を実施することなどである。

2. 編集報告(藤本編集担当理事)

(1) 解剖学雑誌及びA S I 刊行報告

両誌の82巻4号が12月4日に発送されたことが報告された。

(2) A S I について

ASIの現状についての説明の後、今後の検討課題としてブラックウェルとの契約が平成20年度で切れるが、その契約更新をどのような形でおこなうか、および電子ジャーナル化の是非について問題提起がおこなわれた。

3. 企画・渉外報告（内山企画・渉外担当理事）

（1）平成19年度奨励賞・解剖技術士功労賞候補者推薦について

奨励賞については牛木理事より、応募者4名で公募期間を延長したが、追加応募はなく、12月27日に審査委員会を開催し、審査をおこなうことが報告された。また、技術士功労賞については12月末日必着で推薦を受付中であることが報告された。

（2）2007(平成19)年度日本解剖学会総会・全国学術集会事業報告

遠山会頭よりの報告書をもとに、滞りなくおこなわれた旨の報告がおこなわれた。

（3）2008(平成20)年度総会・全国学術集会準備状況報告

藤倉会頭よりの報告書をもとに、準備状況の説明がなされた。

（4）2011(平成23)年度総会・全国学術集会開催校募集

東京で医学会総会が開催される年の標記総会・全国学術集会開催校について、募集が継続中であることが報告された。

（5）海外学術団体（アメリカ解剖学会（AAA）、Anatomische Gesellschaft（AG：ヨーロッパドイツ語圏を中心とする解剖学会））との協力について

AAAとは海外交流委員会の中間答申を参考に、交流方法の見直しを前提にAAA理事長パール氏と意見交換をする予定であること、それに対しAGは日本の解剖学会との共通点も多く、学術集会において演者を交換するなど、今後交流を発展させてゆくことなどが報告された。

（6）献体学術賞について

日本篤志献体協会および篤志解剖全国連合会より、肉眼解剖学の振興のための標記の賞、肉眼解剖学分野の若手育成のための旅費援助を創設し、資金を提供するので、賞の選考等に協力頂きたいとの申し入れがあり、受け入れることが報告された。

4. 会計報告（牛木会計担当理事）

（1）平成19年度中間決算報告

10月次収支決算書をもとに、報告がおこなわれた。

（2）2007(平成19)年度日本解剖学会総会・全国学術集会収支決算報告

標記総会・全国学術総会の最終的な収支決算の報告がおこなわれた。

IV. 審議事項

1. 永年会員の推薦

候補者一覧が提示され、承認された。

2. 解剖学雑誌の編集方針（案）とASI編集委員会規約（案）

解剖学雑誌の編集方針（案）は今まで明文化したものがなかったため、このたびあらたに作成した。編集方針として、依頼原稿で構成するが、特に希望がある場合には編集委員会で審議する。ニュースレターとして有効に機能させるために、編集担当理事が編集委員長を兼任する。などが含まれる。また、ASI編集委員会規約（案）は委員会の役割、委員長、委員の選任に関する規約を新たに明文化したもので、両案ともに審議の結果承認された。

3. 2011(平成 23)年度全国学術集会での日本生理学会との共催

日本生理学会と学術集会を共同で開催する件についての検討結果が報告され、承認された。

4. 学術集会プログラムへの学術委員会の関与

学術委員会での審議結果として八木沼委員長から提案のあった標記事項（学術委員会と全国学術集会プログラム委員会との連携体制の確立、シンポジウムの提案などに若い人の意見、希望をとり入れるため学会ホームページに受け付けコーナーを作る）について審議がおこなわれ、了承された。

5. 就業規定（案）、職員給与規定（案）、職員退職手当規定（案）

文部科学省の実地検査で指摘のあった標記諸規定の制定につき、各案が提示され、承認された。

6. 事務処理規程（案）

文部科学省の実地検査で指摘のあった標記規定につき、案が提示され承認された。

7. 名簿の作成

名簿の発行とその形態、スケジュール、プライバシーポリシーの制定、および見積もり等について承認された。

8. プライバシーポリシー（案）

案が提示され、承認された。

9. 学会事務委託契約

平成 20 年度の学会事務委託契約に関し、口腔保健協会との間の学会事務代行契約書（案）および「解剖学雑誌」販売業務委託に関する契約書（案）が承認された。

10. 平成 20 年度事業計画（案）

案が提示され、承認された。

11. 平成 20 年度仮予算案

案が提示され、承認された。

12. その他：（1）技術士功労賞、奨励賞：3 月の総会に間に合わせるため、理事会での審議はメールによる持ち回り審議とすることが承認された。（2）出席理事より実習見学のコメディカル校に対して、賛助会員としての学会への参加を奨励する案が提案された。

上記の 2007 年度（平成 19 年度）第 5 回理事会の議決および確認事項を明確にするため、この議事録を作成し、議事録署名人はここに記名押印する。

2008 年（平成 20 年） 月 日

社団法人 日本解剖学会

議長

署名人

署名人